



--- 医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読みください。---

添付文書改訂のお知らせ

2021年11月

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 日本イーライリリー株式会社

⇒±

選択的 SGLT2 阻害剤 -2 型糖尿病・慢性心不全治療剤-エンパグリフロジン製剤 処方箋医薬品^{注)}

ジャディアンス®錠 10mg

選択的 SGLT2 阻害薬ー2 型糖尿病治療剤ー エンパグリフロジン製剤 処方箋医薬品^{注)}

ジャディアンス®錠 25mg

Jardiance® Tablets 10mg • 25mg

注)注意-医師等の処方箋により使用すること

謹啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、弊社製品につきましてご愛顧を賜り厚く 御礼申し上げます。

さて、この度、ジャディアンス[®]錠 10mg に対して「慢性心不全」の効能・効果が追加承認されたことに伴い、添付文書を下記のとおり改訂いたしましたので、お知らせ申し上げます。

つきましては、今後のご使用に際しまして、ご留意くださいますようお願い申し上げます。

謹言

効能又は効果追加に伴う改訂内容(部 改訂)

改 訂 後	改 訂 前
4. 効能又は効果	4. 効能又は効果
<ジャディアンス錠 10mg・25mg>	2 型糖尿病
2 型糖尿病	
〈ジャディアンス錠 10mg〉	
<u>慢性心不全</u>	
<u>ただし、慢性心不全の標準的な治療を受けている患</u>	
<u>者に限る。</u>	
6. 用法及び用量	6. 用法及び用量
<u><2 型糖尿病></u>	通常、成人にはエンパグリフロジンとして 10mg
通常、成人にはエンパグリフロジンとして 10mg	を1日1回朝食前又は朝食後に経口投与する。な
を1日1回朝食前又は朝食後に経口投与する。な	お、効果不十分な場合には、経過を十分に観察しながら 25mg1 日 1 回に増量することができる。
お、効果不十分な場合には、経過を十分に観察し ながら 25mg1 日 1 回に増量することができる。	ながら 20mg1 ロ 1 凹に増重することができる。
<u>〈慢性心不全〉</u> -	
通常、成人にはエンパグリフロジンとして 10mg	
を1日1回朝食前又は朝食後に経口投与する。	

改訂理由

承認事項一部変更承認(令和3年11月25日付)

一部変更承認に伴い「4. **効能又は効果」**及び「6. 用**法及び用量」**を改訂しました。

北 計 仫	北 計 盐
<u>改訂後</u> 2. 禁忌	改訂前 2. 禁忌
2.3 重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者 [<u>糖尿病を有する患者では</u> インスリン注射による血糖	2.3 重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者 [インスリン注射による血糖管理が望まれるので本剤
管理が望まれるので本剤の投与は適さない。]	の投与は適さない。]
5. 効能又は効果に関連する注意	5. 効能又は効果に関連する注意
<u><2 型糖尿病></u> 	5.1~5.4 略
5.1~5.4 略	₽ \ú÷n
✓慢性心不全〉5.5 左室駆出率の保たれた慢性心不全における本剤の	← 追記
1.5 左皇&出年の保たれた。後世七年主における年前の 有効性及び安全性は確立していないため、左室駆出 率の低下した慢性心不全患者に投与すること。	
5.6「臨床成績」の項の内容を熟知し、臨床試験に組み	
入れられた患者の背景(前治療、左室駆出率等)を十	
分に理解した上で、適応患者を選択すること。	
7. 用法及び用量に関連する注意	← 追記
2型糖尿病と慢性心不全を合併する患者では、血糖コン	
トロールが不十分な場合には血糖コントロールの改善を 目的として本剤 25 mg に増量することができる。ただし、	
慢性心不全に対して本剤 10 mg 1 日 1 回を超える用量	
の有効性は確認されていないため、本剤 10 mg を上回る	
有効性を期待して本剤 25 mg を投与しないこと。	
8. 重要な基本的注意	8. 重要な基本的注意
<u>〈効能共通〉</u>	8.1 略
8.1 略	8.2 本剤投与中は、血糖を定期的に検査し、薬剤の効果を確かめ、本剤を3カ月投与しても効果が不十
8.2 本剤投与により、血清クレアチニンの上昇又は eGFR の低下がみられることがあるので、腎機能を定期的に	米を確かめ、本角を3カ月投与しても効果が不下 分な場合には他の治療法への変更を考慮するこ
検査すること。	٤.
8.3~8.8 現行 8.4~8.9 のとおり	8.3 本剤投与により、血清クレアチニンの上昇又は eGFR
<2 型糖尿病>	の低下がみられることがあるので、腎機能を定期的に 検査すること。腎機能障害患者においては経過を十
8.9 本剤投与中は、血糖を定期的に検査し、薬剤の効	検査 9 ること。 育機能障害患者においては雇題を 分に観察し、継続的に eGFR が 45 mL/min/1.73m ²
果を確かめ、本剤を3カ月投与しても効果が不十 分な場合には他の治療法への変更を考慮するこ	未満に低下した場合は投与の中止を検討すること。
と。	8.4~8.9 略
8.10 腎機能障害患者においては経過を十分に観察し、	
継続的に eGFR が 45 mL/min/1.73m ² 未満に低下し	
た場合は投与の中止を検討すること。	0 性中の非星な方才スまネに即せて注音
9. 特定の背景を有する患者に関する注意 9.1 略	9. 特定の背景を有する患者に関する注意 9.1 略
9.2 腎機能障害患者	9.2 腎機能障害患者
〈2 型糖尿病〉	9.2.1~9.2.2 略
9.2.1~9.2.2 略	
<u><慢性心不全></u>	
9.2.3 高度腎機能障害患者	
eGFR が 20 mL/min/1.73m ² 未満の患者では、投与	
の必要性を慎重に判断すること。本剤投与中に eGFR が低下することがあり、腎機能障害が悪化する	
おそれがある。eGFR が 20 mL/min/1.73m ² 未満の患	
者又は透析を要する腎機能障害患者を対象とした臨	
床試験は実施していない。	9.3 略
9.3 略	

効能又は効果追加に伴うその他の改訂内容 (続き) (部 改訂)

改 訂 後

- 9.5 妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、本剤を投与せず、2型糖尿病患者ではインスリン製剤等を使用すること。本剤の動物実験(ラット)で、ヒトの妊娠中期及び後期にあたる幼若動物への曝露により、腎盂及び尿細管の拡張が報告されている。また、動物実験(ラット)で胎児への移行が報告されている。
- 9.6~9.7 略
- 9.8 高齢者

略

9.8.1 75 歳以上の高齢者

2 型糖尿病を対象とした国内外の臨床試験の併合解析において、75 歳以上の患者では75 歳未満の患者と比較し、本剤25mg群で体液量減少の有害事象の発現割合が高かった。

11. 副作用

略

- 11.1 重大な副作用
- 11.1.1 **低血糖** (<u>1.5</u>%) 略
- 11.1.2 脱水 (0.3%) 略
- 11.1.3 ケトアシドーシス(頻度不明) 略
- 11.1.4 **腎盂腎炎**(頻度不明)、**外陰部及び会陰部の壊死性筋膜炎**(フルニエ壊疽)(<u>0.1%未満</u>)、敗血症(<u>0.1%未</u>満) 略

11.2 その他の副作用

	0.1~5%	0.1%未満	頻度不明
感染症	略	略	
生殖系障 害	<u>亀頭包皮炎</u> 、 陰部そう痒症	外陰腟不快感、 外陰腟そう痒症	<u>亀頭炎</u>
代謝及び 栄養障害	高脂血症	体液量減少	
血液及び リンパ系障 害		血液濃縮	
神経障害	略		
胃腸障害	略		
皮膚及び 皮下組織 障害	<u>そう痒症</u> 、発疹	湿疹、じん麻疹	
腎及び尿 路障害	頻尿、多尿 <u>、排</u> <u>尿困難</u> 、尿量 増加	尿意切迫	
一般·全身 障害	略		
臨床検査	体重減少	尿中ケトン体陽 性、血中ケトン 体陽性	

17. 臨床成績

- 17.1 有効性及び安全性に関する試験
- <2 型糖尿病>

17.1.1~17.1.4 略

改訂前

- 9.5 妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、本剤を投与せず、インスリン製剤等を使用すること。本剤の動物実験(ラット)で、ヒトの妊娠中期及び後期にあたる幼若動物への曝露により、腎盂及び尿細管の拡張が報告されている。また、動物実験(ラット)で胎児への移行が報告されている。
- 9.6~9.7 略
- 9.8 高齢者

略

9.8.1 75 歳以上の高齢者

国内外の臨床試験の併合解析において、75歳以上の患者では75歳未満の患者と比較し、本剤25mg群で体液量減少の有害事象の発現割合が高かった。

11. 副作用

略

- 11.1 重大な副作用
- 11.1.1 低血糖 (2.3%) 略
- 11.1.2 脱水 (0.1%) 略
- 11.1.3 ケトアシドーシス(頻度不明) 略
- 11.1.4 腎盂腎炎(頻度不明)、外陰部及び会陰部の壊死 性筋膜炎(フルニエ壊疽)(頻度不明)、敗血症(頻度 不明) 略

11.2 その他の副作用

	0.150/	0.10/土港	超声不明
D. M. J.	0.1~5%	0.1%未満	頻度不明
感染症	略	略	
生殖系障	亀頭炎、陰	亀頭包皮炎、外	
害	部そう痒症	陰腟不快感、外	
		陰腟そう痒症	
代謝及び	高脂血症		体液量減
栄養障害			少
血液及び	血液濃縮		
リンパ系障			
害			
神経障害	略		
胃腸障害	略		
皮膚及び	発疹		そう痒症、
皮下組織			じん麻疹
障害			
腎及び尿	頻尿、多尿、		排尿困難
路障害	尿量増加		
一般•全身	略		
障害			
臨床検査	体重減少、	血中ケトン体陽性	
	尿中ケトン体		
	陽性		

17. 臨床成績

- 17.1 有効性及び安全性に関する試験
- 17.1.1~17.1.4 略

改 訂 後 改

〈慢性心不全〉

17.1.5 <u>左室駆出率が低下した慢性心不全患者を対象とした国際共同第Ⅲ相試験</u>

左室駆出率が低下した慢性心不全患者(LVEF40%以下、NYHA 心機能分類 II~IV 度、eGFR が 20 mL/min/1.73m²以上)に、本剤 10mg を他の慢性心不全治療(忍容性のある範囲で ACE 阻害薬、ARB、ARNi、β 遮断薬や MRA 等)に上乗せして1 日 1 回経口投与したプラセボ対照二重盲検比較試験を行った。日本人 266 例を含む 3730 例がランダム化され(本剤 10mg:1863 例(うち日本人 144 例)、プラセボ:1867 例(うち日本人 122 例))、投与/追跡期間の中央値は本剤 10mg で 1.19 年/1.30 年、プラセボで1.17 年/1.32 年であった。なお、2 型糖尿病患者注は本剤 10 mg 群で 927 例(うち日本人 70 例)、プラセボ群で 929 例(うち日本人 52 例)、2 型糖尿病非合併患者は本剤 10 mg 群で 936 例(うち日本人 74 例)、プラセボ群で 938 例(うち日本人 70 例)であった。

注) 糖尿病の病歴がある、又は治験薬投与前の HbA1c が 6.5%以上である患者

主要複合評価項目は心血管死、又は心不全による 入院のいずれかの初回発現までの期間とし、結果は 下表のとおりであった。

	<u>本剤 10mg 群</u> (n=1863) <u>N</u> (発現	プラセボ群 (n=1867) 割合%)	<u>ハザード比†¹⁾ (95%信頼区間)</u>
心血管死又 は心不全に よる入院(初 回)	361 (19.4)	462 (24.7)	0.75 (0.65, 0.86) † ²⁾
心血管死	187 (10.0)	202 (10.8)	0.92 (0.75, 1.12)
心不全によ る入院(初 回)	246 (13.2)	342 (18.3)	0.69 (0.59, 0.81)

n: ランダム化された症例数

†1): 投与群、地域 (アジア、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、北米、その他)、ベースラインの糖尿病状態 (糖尿病、前糖尿病、非糖尿病)、年齢、性別、ベースラインの LVEF (≦30%、>30%~≦35%、>35%)、ベースラインの eGFR を因子として含めた Cox 回帰分析

<u>†2):中間解析により減少した両側 α=0.0496 に基づき,</u> 95.04%信頼区間を掲示

本試験における副作用発現割合は、本剤 10mg で 15.2%(283/1863 例)、プラセボで 12.2%(227/1863 例)であり、主な副作用は低血圧(10mg:2.3%(43/1863 例)、プラセボ:1.8%(34/1863 例))であった。なお、他者による介助を必要とする重度の低血糖は2型糖尿病を合併した患者においてのみ認められた。37)

17.2 製造販売後調査等

略

17.2 製造販売後調査等

略

← 追記

訂

前

効能又は効果追加に伴うその他の改訂内容(続き)(部 改訂) 改 訂 訂 改 前 18. 薬効薬理 18. 薬効薬理 18.1 作用機序 18.1 作用機序 18.1.1 現行 18.1 のとおり 18.1.2 エンパグリフロジンは腎臓の近位尿細管における SGLT2 を介して、グルコースだけではなくナトリウム再 吸収も抑制するため、遠位尿細管へのナトリウム送達 が増加する42。その結果として、尿細管糸球体フィー ドバックの増加、心臓の前負荷及び後負荷の減少 並びに交感神経活性の低下など生理的機能に変化 を及ぼす可能性がある^{43),44)}。また、エンパグリフロジ ンの内皮機能に対する直接的作用 45)、心臓の代替 エネルギー源としてのケトン体供給による代謝への作 用 46), 47) 及び酸化ストレス 48)、炎症の抑制 49) も慢性 心不全に対する作用に寄与している可能性がある。 18.2 薬理作用 18.2 薬理作用 18.2.1~18.2.3 略 18.2.1~18.2.3 略 ← 追記 18.2.4 心血管に対する作用 (1) 糖尿病モデル動物に対する作用 高脂肪食を摂取させた KK-Ay マウスにエンパグリフ ロジンを 10 mg/kg 1 日 1 回 8 週間経口投与した時 心機能の悪化及び心線維化を抑制した48)。 (2) 正常血糖の心不全モデル動物に対する作用 雄 Sprague-Dawley ラットに冠動脈の永久結紮を行い 心筋梗塞を誘発したモデルにおいて、エンパグリフロ ジンを平均摂取量1日30 mg/kg となるように10週間 混餌投与した時、心筋梗塞誘発後の心機能悪化を抑 制した520。雌のヨークシャーブタを用いた虚血再灌流 誘発による心筋梗塞モデルにおいても、エンパグリフ ロジンの2カ月間1日1回10 mgの経口投与は、左 室収縮及び拡張機能を改善すると共に左室リモデリン グを抑制した ⁵³⁾。 23. 主要文献 23. 主要文献 1)~36) 略 1)~42) 略 37) 社内資料: 国際共同第Ⅲ相試験(2021年11月25日 承認、CTD 2.7.6.1) 38)~41) 現行 37)~40)のとおり 42) Thomson S. C. et al.: Am. J. Cardiol. 2019; 124 Supple 1:S28-S35 43) Zelniker T. A. et al.: J. Am. Coll. Cardiol. 2018 (72): 1845-1855 44) Griffin M. et al.: Circulation. 2020 (142): 1028-1039 45) Park SH. et al.: Cardiovasc. Diabetol. 2020(19):19 46) Oh C. M. et al.: Korean Circ. J. 2019 (49):1183-1195

47) Abdurrachim D. et al.: Cardiovasc. Res. 2018 (114):

48) <u>Li C. et al.: Cardiovasc. Diabetol. 2019 (18):15</u>
49) <u>Lin B. et al.: Cardiovasc. Diabetol. 2014 (13):148</u>

52) Yurista SR et al.: Eur J Heart Fail. 2019 (21):862-

53) Santos-Gallego CG et al.: J Am Coll Cardiol. 2019

1843-1844

(15):1931-1944

50)~51) 現行41)~42)のとおり

改訂理由

承認事項一部変更承認(令和3年11月25日付)に伴うその他の改訂

「2. 禁忌」

糖尿病を有する患者ではインスリン注射による血糖管理が望まれるため、患者背景を記載しました。

「5. 効能又は効果に関連する注意」

臨床試験の組入れ基準を考慮して、本剤の投与対象となる左室駆出率が低下した慢性心不全患者を選択することが重要であることから、注意喚起を記載しました。

「7. 用法及び用量に関連する注意」

慢性心不全患者に対する用法及び用量は、既承認の2型糖尿病とは異なることから、注意喚起を記載しました。

「8」 重要な基本的注意」

2型糖尿病と慢性心不全に共通する注意と2型糖尿病に対する注意喚起に記載を分けました。

「9. 特定の背景を有する患者に関する注意」

高度腎機能障害のある慢性心不全患者に対しては、本剤投与の必要性を慎重にご判断いただく必要があることから、注意喚起を記載しました。また、一部記載整備を行いました。

「11. 副作用」

既承認の2型糖尿病の臨床試験及び慢性心不全の臨床試験の副作用の併合解析結果に基づき,重大な副作用並びにその他の副作用の記載を変更しました。

「17. 臨床成績、17.1.5 左室駆出率が低下した慢性心不全患者を対象とした国際共同第Ⅲ相試験」 左室駆出率が低下した慢性心不全患者を対象とした国際共同試験(1245.121試験)における有効性及び安 全性の結果は、全体集団と日本人部分集団において異なる傾向はみられていないことから、試験全体の結 果を記載しました。

「18. 薬効薬理」

慢性心不全に関する薬効薬理試験の結果を記載しました。

「23. 主要文献」

慢性心不全に関する主要文献を記載しました。

医薬品添付文書改訂情報は、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」 (http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html)に最新の電子化された添付文書、並びに医薬品安全対策情報 (DSU) が掲載されます。

また、ジャディアンスに関する情報は、以下の GS1 バーコードを用いて、専用アプリ「添文ナビ」よりご確認いただけます。

(01)14987413300619

製造販売 日本ペーリンガーインゲルハイム株式会社 東京都品川区大崎2丁目1番1号 販売提携 日本イーライリリー株式会社 神戸市中央区磯上通5丁目1番28号

> 0 1 5 3 3 2 JAD-N018 (R0)